



みんながつながり 「夢が育つ学校」に

国立二小だより

平成28年9月1日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

「夢」は明日へのエネルギー

校長 小林 理人

オリンピックイヤーの今年は、スポーツを通して「夢」のもつ大きな力を感じる夏でした。テニスで活躍した錦織圭選手は小学校6年生の時に以下のような「夢」を作文に綴ったそうです。

<ぼくの夢> 錦織 圭

この六年間で一番思い出に残ったことはテニスで日本一になったことです。練習で一所懸命やった結果が出たと思います。

全国選抜や全国小学生大会、全日本ジュニアの三つの試合で優勝しました。一試合一試合を「絶対勝つぞ」と思ってやりました。そして「優勝」までいけた時は、すごくうれしかったです。ぼくはテニスのラリーが長く激しく続くところが好きです。いろいろなコースに打ち分け、深く打ったり短く打ったりします。チャンスボールがきた時、強いボールを打つのが好きです。決まった時はすごく気持ちがいいです。このショットがいつも打てるように練習していきたいです。

試合に出ることで友達が増えました。友達が増えたおかげでいろいろな話をしたり、いっしょに練習できたりします。それもテニスが好きな一つです。これからは誰にも負けないように、苦しい練習も絶対にあきらめずに全力でとりくんでいこうと思います。

夢は世界チャンピオンになることです。夢に向かって一步一步がんばっていきます。

世界を舞台に活躍している錦織選手にとって、この時に作文に綴った「夢」が、苦しい局面や大きなプレッシャーの中で自分自身を支える大きな力になっているのかもしれない。

私が校長になったばかりの時のことです。何もかも初めての経験で、日常の様々な対応に追われて思うように仕事が進まず「自分にこの仕事が務まるだろうか」「自分がこの学校を駄目にしてしまうのではないか。」といった自分不信、弱気との戦いが毎日のように続いていました。

そんな時、当時の高学年担任から「2学期から進める夢づくりの授業の一環として、子供たちに校長先生の夢についての話を聞かせたい。」との相談がありました。「子供の夢を育てる」ことを学校経営の中心に掲げていたこともあり、高学年の児童や担任が「夢」を意識してくれたことを嬉しく思い、喜んで引き受けました。

夏休みになり、小学校、中学校、高校の卒業アルバムや文集を押し入れから見つけ出すのに数日を要し、昔の文集やアルバムを見返しながら当時の自分を思い出し、古い写真を中心に自分自身の「夢」の変遷をプレゼンシートにまとめました。作業も順調に進みました。しかし、いよいよ校長となった今の「夢」をまとめようとしたとき、その作業がピタリと止まりました。「今の自分の夢」が思い浮かばないのです。2人の子供も手を離れ、教員として目標としていた校長になった今、改めて自分の夢を考えたとき、具体的なイメージがはっきりと思い浮かばないことに愕然としました。

それからしばらく「夢」についての自問自答が続き、1学期に作成した学校要覧にある言葉に目が留まりました。それは「みんなの夢を育てる学校に」という経営方針として掲げた言葉でした。それまでの自分が目の前の対応や、すべきことに追われ「みんなの夢を育てる」という目標や理念が自分自身の夢であることすら意識できなくなっていたことに気が付いたのです。

高学年の担任からもらった夏休みの宿題によって校長としての自分に向き合い、学校づくりのリーダーである高学年の子供たちを意識することで目の前にあった深い闇に明かりが灯りました。

「夢」はとても身近なところにあるものです。しかし、人は目の前のことにいつも一生懸命で、「何のため」ということが後回しになってしまうのかもしれない。大切なことは「何のため」を意識し、夢の実現を信じて前に向かう気持ちをもつことです。そうすることで、すべきことやしなければならないことに意味が生まれ、意欲をもって主体的に動くことができるようになるのだと思います。

9月は「挑戦」という言葉を意識します。1学期や夏休みに大きく成長した自分の力を生かし、2学期に挑戦することを具体的に決めて、その目的（「何のため」）をしっかりと見据えたり、見通しや計画を考えたりして、新しい学期をスタートします。